

注目スポット

① 馬の背

鳥取砂丘の起伏の大きさを象徴する。真下から眺める標高46mの砂の壁は迫力満点。



② オアシス

湧き水が溜まり、池となったもの。冬には水深1mを超える池になるが、夏には干上がってなくなる。オアシス周辺の湿地には、エリザハンミョウの営巣地があり、近年その数が減少したため、保護している。



③ 火山灰露出地

※裏面に詳しい説明があります

④ 追後スリパチ

高低差約20mの凹地。その名の通り、掘り鉢のような形をしている。



⑤ 多鯨ヶ池

中国地方で最も深い池。背面は森、前面は砂に塞がれ、池となった。飛砂防止のクロマツに囲まれた緑豊かな池。



周辺施設

鳥取砂丘を含む山陰海岸ジオパークは世界ジオパークに認定されています

鳥取砂丘中心部探検マップ

東西16km、南北2.4kmにわたる鳥取砂丘。その中心部(146.2ha)が天然記念物として指定されています。



散策のルール

「自然公園法」で許可が必要または禁止されています (違反者は6ヶ月以下の懲役または50万円以下の罰金)

- 砂丘内の砂の持ち帰り
- テントなどの仮設工作物の設置
- 看板やのぼりなどの広告物の掲示や設置
- 車両等の乗り入れ
- 拡声器等による著しい騒音の発生

「日本の鳥取砂丘を守り育てる条例」で禁止されています (禁止行為によっては違反者は5万円以下の過料)

- 砂上への落書き
 - ゴミ(タバコの吸殻等)のポイ捨て
 - ゴルフの打ち放しや花火の発射等
 - 動物のふんの投棄
 - 砂丘海浜での遊泳
- …など、鳥取砂丘で安心、安全に過ごしていただくための規定を設けています。



杭で自分の場所を確認しよう!!

砂丘内には100m間隔で杭が立てられています。杭の上に書かれている番地をもとに、砂丘を散策してください。 ※○が杭の位置を表しています。



風の芸術

ふうもん 風紋

乾いた砂に毎秒5~10mの風が吹くと見られる砂丘独特の風景。時々刻々と模様を変えながら風下側へと移動する。足跡のない早朝がきれい。



湿った砂に毎秒12mを超える風が吹くとできる。台風通過後などによく見られる風景。



湿った砂が乾いていくときにできる。風の揺らぎで一か所が崩れると、たちまち横につながっていく砂なだれ。

砂の恵み

⑪ らっきょう畑

砂丘の東側に約120haものらっきょう畑が広がる。寒暖差が激しい砂地で育つラッキョウはシャキッとした歯ごたえが特徴。10月末~11月初旬には赤紫色の花畑となる。



⑥ 鳥取砂丘ビジターセンター

鳥取砂丘ビジターセンター TEL 0857-22-0021 鳥取砂丘パークサービスセンター TEL 0857-23-7652

鳥取砂丘の様々な魅力を紹介しています。映像ミニシアター「すなくら」では、壁と床面全体に刻々と変化する砂丘をご覧いただけます。散策の前にぜひお立ち寄りください。砂丘の情報や周辺観光情報のご案内、砂丘用車イスの貸出も行っています。



足洗い場

建物の外にあり 自由にご利用ください



⑦ 砂の美術館

TEL 0857-20-2231

毎年テーマを変え、砂で創られた彫刻「砂像」を展示する、世界で唯一の美術館です。



⑧ 鳥取砂丘こどもの国

TEL 0857-24-2811

大型木製遊具や各種の乗物遊具、陶芸や木工工作が体験できる工房もあり、親子で楽しめます。



⑨ 鳥取大学乾燥地研究センター

TEL 0857-23-3411

乾燥地研究に組織的に取り組む我が国唯一の研究機関で、海外からの研究者等も多く国際色豊かなセンターです。



レンタサイクル

のんびりと自転車で 周遊しませんか?

時間・料金等の詳細は各施設にお問い合わせください。

鳥取市サイクリングターミナル
TEL 0857-29-0800

鳥取砂丘の成り立ち

- 1 中国山地の岩石が風化して砂となり大雨によって川に出ます。
- 2 千代川によって大量の砂が日本海に流れ出ます。
- 3 一度沖合に流された砂は、海の流れによって陸地に近づき浅海底に堆積します。
- 4 波浪により海岸に砂が打ち上げられます。
- 5 主に北西の季節風により吹き飛ばされて陸地に運ばれ、内陸側に積もって海岸砂丘となります。



鳥取砂丘の地質



鳥取砂丘では、砂の間に火山灰層を観察することができます。写真は砂丘商店街の駐車場で見られる砂丘断面の露頭です。砂の間に火山灰層が挟まれている様子が観察できます。火山灰層の上に堆積している新しい砂丘が新砂丘と呼ばれています。火山灰層の下に堆積している砂丘は、古砂丘と呼ばれています。



大山倉吉軽石層の露出

砂丘内には火山灰層が露出している所があります。風通しがいい所の砂が飛ばされ、火山灰層が顔を出しています。火山灰層の中には、約5万5千年前に大山から噴出した大山倉吉軽石層が見られます。これらの地層は、鳥取砂丘の形成史を物語る貴重な財産です。

鳥取砂丘の草原化と除草の取り組み

1970年（昭和45年）ごろから砂丘に本来生えていない外来植物が目立ち始め、砂の移動が減少して美しい風紋や砂簾が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題になりました。鳥取県・鳥取市では、平成6年から本格的に除草活動を開始し継続しています。除草作業の進展に伴い、今では砂丘本来の姿を取り戻しつつあります。平成16年からはボランティアによる除草も始まり、県民との協働で砂丘を守る取り組みが進んでいます。平成29年度は8千人を超えるボランティアの方が参加しています。



ボランティア除草の様子

アダプトプログラム

ボランティア除草の取り組みをより市民レベルの活動に定着させ、持続的なものとするため、平成18年からアダプトプログラム（一定の区域を里親のように責任を持って担当する仕組み）を導入実施しています。現在では、次の10団体がこの取組に参画しています。

- アサヒコンサルタント株式会社
- 積水ハウス株式会社鳥取支店グループ
- サイトウコンサルタント株式会社
- 大山日ノ丸証券株式会社
- 鳥取中央ロータリークラブ
- 国立大学法人鳥取大学
- 東洋交通施設株式会社
- 鳥取市
- 鳥取県
- 鳥取ロータリーアクトクラブ

草原化の状況（平成3年撮影）



砂丘に暮らす動物



イソコモリグモ
(クモ目コモリグモ科)
鳥根県以北の、主に日本海側の砂浜に生息する大型のクモ。体長は2cmを超える。本種を含むコモリグモ科のクモは母親が卵のうや、ふ化した子グモを保護する習性がある。



カワラハンミョウ
(コウチュウ目ハンミョウ科)
体長15mm内外。全国の河川河原や砂浜海岸に分布していたが、多くの県で絶滅種または絶滅危惧種になっているハンミョウ。体の色と模様は砂地に対して陰べい。



ハマベウスバカゲロウの幼虫
(アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科)
海側の開けた斜面にすり鉢状の巣穴をつくる。体長約1cm。日本海側の限られた海浜砂丘で見られるが、鳥取砂丘には多い。



ハマスズ
(バッタ目ヒバリモドキ科)
海浜植物群落の近くでよく見かける海浜性のコオロギ。隠ぺい色で、背景に溶け込む。

砂丘に生育する植物〈砂丘植物〉



コウボウムギ(カヤツリグサ科)
4月下旬に花をつける。ムギの名は穂の形から。雌雄異株だが、まれに雌雄を一緒につけている穂も見られる。



ピロドテンツキ(カヤツリグサ科)
8月頃、茎の先に数個の小穂をかたまつてつける。茎や葉には白い絹毛が多い。



オニシバ(イネ科)
6~8月頃、花を開く。直立した茎とそこから水平に開いた硬くて細い葉が印象的である。



ハマニガナ(キク科)
真夏には少なくなるが、4~10月頃まで次々に直径2~3cmの黄色い頭花をつける。



ハマヒルガオ(ヒルガオ科)
5~6月頃、アサガオ状のピンク色の花をつける。大きな群落が一斉に咲くさまは、見応えがある。



コウボウシバ(カヤツリグサ科)
4~5月、同じ株内の上部に雄小穂、下部に雌小穂をつける。コウボウムギに比べて小型。



ハマゴウ(クマツヅラ科)
7月頃、青紫色の花をつける。直径5mmほどの黒い果実は強い香りがあり、乾燥させて漢方薬として使われる。



ケカモノハシ(イネ科)
7月頃、先端にびったりと密着した2本の穂をつける。茎の節や小穂に毛が多い。



ハマボウフウ(セリ科)
6~7月頃、花を開く。カリフラワー状に小さく密な白い花を多数つける。砂丘内に点在する。



ウンラン(ゴマノハグサ科)
8~9月、枝先に黄白色の花を数個つける。多肉でへら形の実をつけた茎が斜めに立ち上がる。



ネコノシタ(キク科)
7月頃、直径2cmほどの黄色い頭花をつける。花を車輪に見立てたハマグルマの名もある。海沿いに群生する。



ハマベノギク(キク科)
9~10月頃、直径3~4cmの紫色の頭花をつける。鳥取砂丘では西側の一部に見られる。

鳥取砂丘周辺の歌碑

鳥取砂丘は文人の感性に問いかける不思議な魅力を秘めています。人知の遠く及ばぬ神秘的な大自然のイメージは、短歌・俳句・推理小説をはじめ、あらゆるジャンルの芸術家たちを惹きつけてやみません。



与謝野晶子歌碑

沙丘踏みさびしき夢に与かれる
われと覚えて涙流る

昭和5年5月25日、与謝野晶子が夫、寛(鉄幹)とともに砂丘を訪れています。この歌は、6月に軽井沢で命を断った。友人有島武郎への鎮魂歌として詠まれました。



有島武郎歌碑

浜坂の遠き砂丘の中にして
さびしき我を見出でけるかも

大正12年、水脈社主催の自由大学講座の講師として有島武郎が来鳥し、その時に詠んだ歌です。武郎が約1ヶ月後に情死を遂げたこともあって、砂丘を世に広めた1首として知られています。



枝野登代秋歌碑

砂丘をいくつ越えしが波音の
まぢかにきこえて海まだ見えず

現在も鳥取市で発行している短歌誌「情脈」を昭和6年創刊、主催し、短歌人口の底辺拡大に努めました。絶筆に「わがあとに続く足跡限りなく亡びず歌とその足の音」があります。



高浜虚子句碑

秋風や 浜坂砂丘
少し行く

昭和7年に俳誌「ホトギス」主宰の高浜虚子一行が砂丘で吟行会を開催し、その時に詠まれました。